

## 2025年2月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2024年10月11日

上場会社名 株式会社 ラピーヌ

上場取引所 東

コード番号 8143 URL <https://www.lapine.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐々木 ベジ

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐々木 ベジ

TEL 03-6635-1847

半期報告書提出予定日 2024年10月15日

配当支払開始予定日 未定

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2025年2月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年3月1日~2024年8月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期中間期	998	18.3	234		23		27	
2024年2月期中間期	1,221	32.2	166		155		154	

(注) 包括利益 2025年2月期中間期 24百万円 ( %) 2024年2月期中間期 128百万円 ( %)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期中間期	11.71	
2024年2月期中間期	65.23	

(注) 2025年2月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、2024年2月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	%	%
2025年2月期中間期	3,321		894		26.9	
2024年2月期	3,436		918		26.7	

(参考) 自己資本 2025年2月期中間期 894百万円 2024年2月期 918百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期		0.00		0.00	0.00
2025年2月期		0.00			
2025年2月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日~2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,950	16.7	450		250		390		164.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年2月期中間期	2,567,064 株	2024年2月期	25,607,064 株
期末自己株式数	2025年2月期中間期	202,986 株	2024年2月期	202,832 株
期中平均株式数 (中間期)	2025年2月期中間期	2,364,164 株	2024年2月期中間期	2,364,279 株

第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当中間決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

また、1株当たり情報の端数処理方法につきましては、有価証券報告書、四半期報告書に合わせて、切捨てとしております。

## ○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	6
中間連結損益計算書 .....	6
中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	10
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症沈静化後の社会・経済活動の正常化に向けた動きが徐々に進み、雇用・所得環境も改善傾向にあり、緩やかな回復基調で推移しました。

一方で、ウクライナ、中東情勢など地政学的リスクは継続しており、不安定な国際情勢の中、原材料・エネルギー価格の高止まりなど、先行きは不透明な状況が続いております。

当アパレル業界では、外出機会の増加やインバウンド需要はあるものの、相次ぐ物価高に伴う消費者の節約志向の影響から、ミセス層を中心とした消費者の消費マインドは依然として慎重さが残り、引き続き厳しい状況下にあります。

このような状況のもと当社グループは、継続して、生活者の価値観の多様化に対応し市場ニーズに適した価格帯商材の供給に取り組み、販売数量のアップを図るとともに、適正利益の確保に努め、厳しい消費環境に対処してまいりました。また、固定費や変動費の抑制、合理化策を継続して行ってまいりました。

これらの結果、当中間連結会計期間の売上高は9億98百万円（前年同期比18.3%減）となり、損益面におきましては、販売費及び一般管理費の抑制に努めたものの、営業損益は2億34百万円の損失（前年同期は1億66百万円の損失）となり、経常損益は23百万円の損失（前年同期は1億55百万円の損失）となりました。また、親会社株主に帰属する中間純損益は27百万円の損失（前年同期は1億54百万円の損失）となりました。

セグメント別の経営成績の概要は次のとおりであります。

#### <卸売事業>

百貨店販売事業においては、若年層による顧客離れや既存顧客層の高齢化の進行と、衣料に対する需要が減退する中、市場環境に対応するために、消費者がお買い求めやすい商品価格に設定し、若い世代の客層を取り込み、新作商品の案内及び店頭への来客を積極的に実行してリピーター顧客を増やし、売上を回復することに取り組んでまいりました。不採算売場の閉鎖により売上高は減少していますが、販売費及び一般管理費の抑制に努めて、均衡策は進んでおります。

また、当社の商品企画や発注の体制を改め、自社の企画力や技術力およびマーケティング力を向上させるための社員教育を積極的に継続して実行しております。

従来品質を保ちながら、仕入原価率を抑制するために、少量多品種に偏った生産方針を見直すとともに、市場に適した価格での売上回復および粗利益の確保により、今後の事業の継続性を改善する取り組みを進めております。

専門店販売事業においては、取引条件や不採算取引の見直しを徹底して行い、デリバリー、収益面の改善に努めております。

また、従来の商慣習であった展示会ベースから受注リードタイムを短くし、リアルシーズン化を図ることで受注精度向上、店頭消化促進に繋がり、アパレル卸として新規取引・新販路開拓に取り組んでおります。

しかしこのような中、各販路とも取引先の整理の影響が大きく、当事業の当中間連結会計期間の売上高は4億31百万円（前年同期比24.7%減）となり、営業損益は1億85百万円の損失（前年同期は1億89百万円の損失）となりました。

#### <小売事業>

卸売事業と同様に、店頭の売上が伸び悩む中、引き続き、立地別、店舗別の効率改善に取り組んでおります。お客様視点に立った魅力ある品揃えの強化、効果的な販売促進策の打ち出しにより店頭活性化を図り、新規お客様の獲得、来店促進強化に努め、リピーター顧客を増やして、損益改善に努めてまいりました。また、本部の強力な指導のもと、経費の効率的運用を行っております。

その結果、当事業の当中間連結会計期間の売上高は5億60百万円（前年同期比12.9%減）となり、営業損益は31百万円の損失（前年同期は42百万円の利益）となりました。

直営店数につきましては、当中間連結会計期間中に新規出店、退店はありません。同期間末の運営店舗数は当社グループ合計で32店となりました。

#### <福祉事業>

当社グループの社会福祉への取り組みとして、障害者総合支援法に基づく「障害者福祉サービス事業」と農地法に基づく農業委員会の認可を受けた「野菜の生産及び販売事業」を両立させる事業を行う会社として2012年にラピーヌ夢ファーム株式会社を設立し事業を行っております。事業規模としては、連結売上高に占める割合は小さいものの、水耕栽培に加えて土耕栽培にも注力し、引き続き採算性改善に努めております。

当事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高6百万円（前年同期比19.2%増）となり、営業損益は17百万円の損失（前年同期は20百万円の損失）となりました。

なお、福祉事業に関しましては、就労支援事業運営費収入13百万円を営業外収益に計上するなどにより、当中間連結会計期間の中間純損失は3百万円となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### （資産）

当中間連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億14百万円減少し、33億21百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べて1億38百万円減少し、16億71百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少66百万円、受取手形、売掛金及び契約資産の減少28百万円などがあったことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて24百万円増加し、16億50百万円となりました。これは主に、投資有価証券の増加10百万円、建物及び構築物の増加7百万円などがあったことによります。

#### （負債）

当中間連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて90百万円減少し、24億27百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べて64百万円減少し、14億円となりました。これは主に、短期借入金の減少29百万円、未払金の減少28百万円などがあったことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて25百万円減少し、10億26百万円となりました。これは主に、長期借入金の減少21百万円などがあったことによります。

#### （純資産）

当中間連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて24百万円減少し、8億94百万円となりました。これは主に、利益剰余金の減少27百万円などがあったことによります。

### ②キャッシュ・フローの状況

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純損失が23百万円となり、売上債権及び契約資産の減少28百万円、退職給付に係る資産の増加16百万円などにより、3百万円の支出（前年同期は3億8百万円の支出）となりました。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得11百万円などがあり、12百万円の支出（前年同期は4百万円の収入）となりました。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の返済51百万円などにより、51百万円の支出（前年同期は70百万円の支出）となりました。

この結果、現金及び現金同等物の当中間連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べて66百万円減少して、12億12百万円となりました。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期通期の業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえて、2024年7月12日に公表しました業績予想数値から変更しております。2024年10月11日公表の「2025年2月期中間期連結累計期間業績予想と実績の差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,279,117	1,212,277
受取手形、売掛金及び契約資産	243,143	215,079
商品及び製品	227,183	225,552
仕掛品	512	208
原材料及び貯蔵品	2,407	2,183
その他	58,807	17,053
貸倒引当金	△1,042	△1,030
流動資産合計	1,810,130	1,671,325
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,556	8,873
土地	941,058	941,058
建設仮勘定	1,100	-
その他（純額）	370	1,777
有形固定資産合計	944,084	951,709
投資その他の資産		
投資有価証券	429,968	440,302
差入保証金	176,565	176,487
退職給付に係る資産	71,699	77,218
その他	9,775	10,488
貸倒引当金	△5,995	△5,995
投資その他の資産合計	682,014	698,501
固定資産合計	1,626,098	1,650,210
資産合計	3,436,229	3,321,535

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当中間連結会計期間 (2024年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	137,687	136,753
電子記録債務	6,084	6,966
短期借入金	904,160	874,380
未払金	321,911	293,362
未払費用	48,450	46,639
未払法人税等	13,787	9,023
契約負債	6,657	6,565
資産除去債務	-	92
その他	26,610	26,619
流動負債合計	1,465,349	1,400,402
固定負債		
長期借入金	730,000	708,650
繰延税金負債	56,308	52,573
資産除去債務	156,042	155,961
長期預り保証金	3,708	3,708
訴訟損失引当金	100,000	100,000
その他	6,065	5,962
固定負債合計	1,052,124	1,026,855
負債合計	2,517,473	2,427,258
純資産の部		
株主資本		
資本金	30,000	30,000
資本剰余金	849,263	849,263
利益剰余金	△5,205	△32,908
自己株式	△246,156	△246,197
株主資本合計	627,901	600,157
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	227,917	238,160
退職給付に係る調整累計額	62,937	55,959
その他の包括利益累計額合計	290,854	294,119
純資産合計	918,755	894,277
負債純資産合計	3,436,229	3,321,535

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
売上高	1,221,832	998,257
売上原価	323,651	382,123
売上総利益	898,181	616,133
販売費及び一般管理費	1,065,178	851,027
営業損失(△)	△166,997	△234,894
営業外収益		
受取利息	2	17
受取配当金	5,291	6,193
助成金収入	13,864	216,564
その他	4,875	2,275
営業外収益合計	24,033	225,051
営業外費用		
支払利息	9,467	13,369
その他	2,901	469
営業外費用合計	12,368	13,839
経常損失(△)	△155,332	△23,682
特別利益		
新株予約権戻入益	6,027	-
特別利益合計	6,027	-
税金等調整前中間純損失(△)	△149,305	△23,682
法人税、住民税及び事業税	4,920	4,020
法人税等合計	4,920	4,020
中間純損失(△)	△154,225	△27,703
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△154,225	△27,703



## （中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）	当中間連結会計期間 （自 2024年3月1日 至 2024年8月31日）
中間純損失（△）	△154,225	△27,703
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31,620	10,242
退職給付に係る調整額	△6,361	△6,977
その他の包括利益合計	25,258	3,265
中間包括利益	△128,966	△24,438
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	△128,966	△24,438
非支配株主に係る中間包括利益	—	—

## (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年8月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純損失 (△)	△149,305	△23,682
減価償却費	—	725
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△24	△12
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	△13,332	△16,024
受取利息及び受取配当金	△5,293	△6,211
支払利息	9,467	13,369
助成金収入	△13,864	△216,564
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	40,402	28,064
棚卸資産の増減額 (△は増加)	3,919	2,158
仕入債務の増減額 (△は減少)	△44,835	△51
契約負債の増減額 (△は減少)	△14,136	△92
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△38,719	△5,480
その他	△84,295	22,819
小計	△310,017	△200,981
利息及び配当金の受取額	5,293	6,211
利息の支払額	△8,150	△16,041
助成金の受取額	13,864	216,564
法人税等の支払額	△9,539	△8,785
営業活動によるキャッシュ・フロー	△308,549	△3,032
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	—	△11,100
資産除去債務の履行による支出	△2,533	—
投資有価証券の取得による支出	△191	△297
差入保証金の増減額 (△は増加)	7,095	78
その他	343	△701
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,712	△12,021
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△69,997	△51,130
自己株式の取得による支出	△19	△40
その他	△700	△616
財務活動によるキャッシュ・フロー	△70,717	△51,786
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△374,555	△66,840
現金及び現金同等物の期首残高	2,088,134	1,279,117
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,713,578	1,212,277

## (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、第71期（2019年2月期）から第76期（2024年2月期）連結会計年度において、営業損失を計上しておりました。当中間連結会計期間においても営業損失が続く中、取引金融機関からは借入金元本の返済猶予を受けており、継続して借入金弁済条件の変更交渉を行っております。

これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を解消すべく、以下の対応策を継続して実行に移しております。

## ①卸売・小売事業については、

- ・製品の品質は維持向上を図りながら、パターン・縫製仕様の合理化を進め、よりお買い求めやすい販売価格で、売れ筋のトレンドを押さえた新作デザインを展開し、幅広いお客様層へ訴求できる魅力ある新商品の提供に努めていきます。
- ・百貨店、直営店売場など店頭VP（ビジュアルプレゼンテーション）は、顧客向けだけでなく、ラピーヌ商品の未購買消費者に向けてのアピールを強化し、新顧客の獲得、増大を図っております。また、既存顧客に対し新作商品の案内及び店頭への来促を積極的に行って、リピーター顧客を増やしております。
- ・製造、仕入額のコントロールとジャストインタイムの納期コントロールによる在庫リスクの低減に努めております。
- ・製造原価の低減による適正粗利確保の取り組みを推し進めるとともに、引き続き固定経費の徹底的削減を継続して、売上高の維持拡大と安定的な営業利益を確保できる体制を整えてまいります。

## ②ラピーヌ夢ファーム株式会社の福祉事業については、

葉もの野菜の水耕栽培、土耕栽培野菜の選定と生産性向上を進めるとともに、施設利用者の作業効率アップに資する教育訓練に努め、営業利益の創出を実現できる体制を整えてまいります。

## ③資金の確保については、

製造原価の低減、販売費及び一般管理費削減の継続的取り組み、取引金融機関への借入金元本返済猶予の依頼及び政府による緊急経済対策に基づく社会保険料の納付猶予制度などの利用により、当中間連結会計期間末における現金及び預金は12億12百万円と、当面の事業継続に必要な資金を確保しております。今後も同様の取り組みを継続するとともに、取引金融機関との良好な関係を維持しつつ、継続的に支援いただくための協議を行ってまいります。

以上の対応策の実施により、事業面及び財務面での安定化を図り、当該状況の解消、改善に努めてまいります。

しかしながら、これらの対策は実施途上であり、今後の営業損益及び財務面に及ぼす影響の程度や期間について不確実性があることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、当中間連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を、中間連結財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間（自 2023年3月1日 至 2023年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	573,219	643,259	5,353	1,221,832	—	1,221,832
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	573,219	643,259	5,353	1,221,832	—	1,221,832
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	573,219	643,259	5,353	1,221,832	—	1,221,832
セグメント利益又は損失(△)	△189,495	42,845	△20,347	△166,997	—	△166,997

(注) セグメント利益又は損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間（自 2024年3月1日 至 2024年8月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額	中間連結 損益計算書 計上額 (注)
	卸売事業	小売事業	福祉事業	計		
売上高						
顧客との契約から 生じる収益	431,477	560,401	6,378	998,257	—	998,257
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	431,477	560,401	6,378	998,257	—	998,257
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	431,477	560,401	6,378	998,257	—	998,257
セグメント損失(△)	△185,239	△31,669	△17,984	△234,894	—	△234,894

(注) セグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。